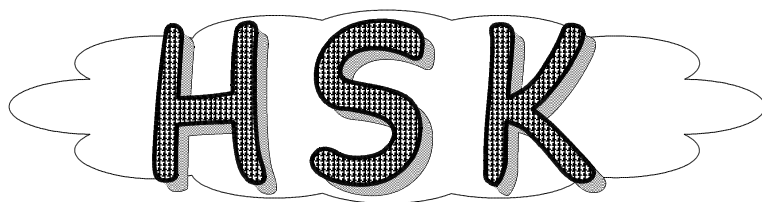


一九九四年八月四日 第三種郵便承認

HSK 毎月十二回 (一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日) 発行



季刊わたぼうし

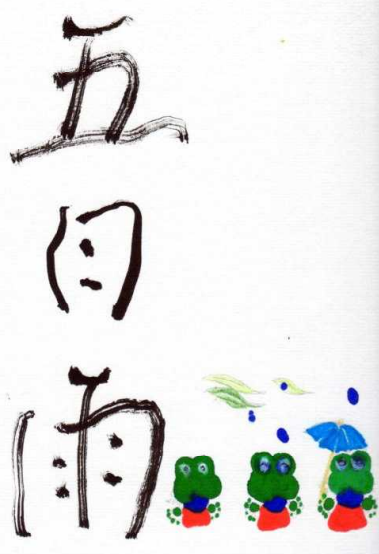
NO.91
'12 春

七尾市コミュニティバス
「ぐるっと7」で巡る七尾の旅 2012 ②

今回の目次

※シリーズ・七尾市コミュニティバス「ぐるっと7」で 巡る七尾の旅 2012 ②	
・プロローグ(前置き)	2
・①「ぐるっと7」公立能登総合病院	3
・国際医療福祉専門学校七尾校	3
・②「ぐるっと7」小丸山台3丁目	4
・小島西部交差点から公立能登総合病院	5
・③「ぐるっと7」小丸山台2丁目	6
※「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」 について語ろう会	
・「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」 について語ろう会・座談会 I	8
※改装しました 「HSK季刊わたぼうし」のホームページ	
11	
※会費の納入のお願いについて	
12	
※編集後記	
12	

田植え済む
農家喜ぶ
五月雨か
千寿子



この機関紙は障がいのある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

七尾市コミュニティバス 「ぐるっと7」で巡る七尾の旅 2012 ②

○コミュニティバス「ぐるっと7」を使って七尾の名所散策・人との出会いを求めて。昨年は「ぐるっと7」で青山彩光苑から松百新町まで歩きましたが、今年には松百新町から小丸山台1丁目を予定しています。

プロローグ(前置き)

「ぐるっと7・西回りコース」は「2001年青山彩光苑障害者週間」の企画で「七尾市に車いすで乗車できるバス『まりん号』を彩光苑へ」を合い言葉に運動、署名活動を行い、夢を実現させたものです。

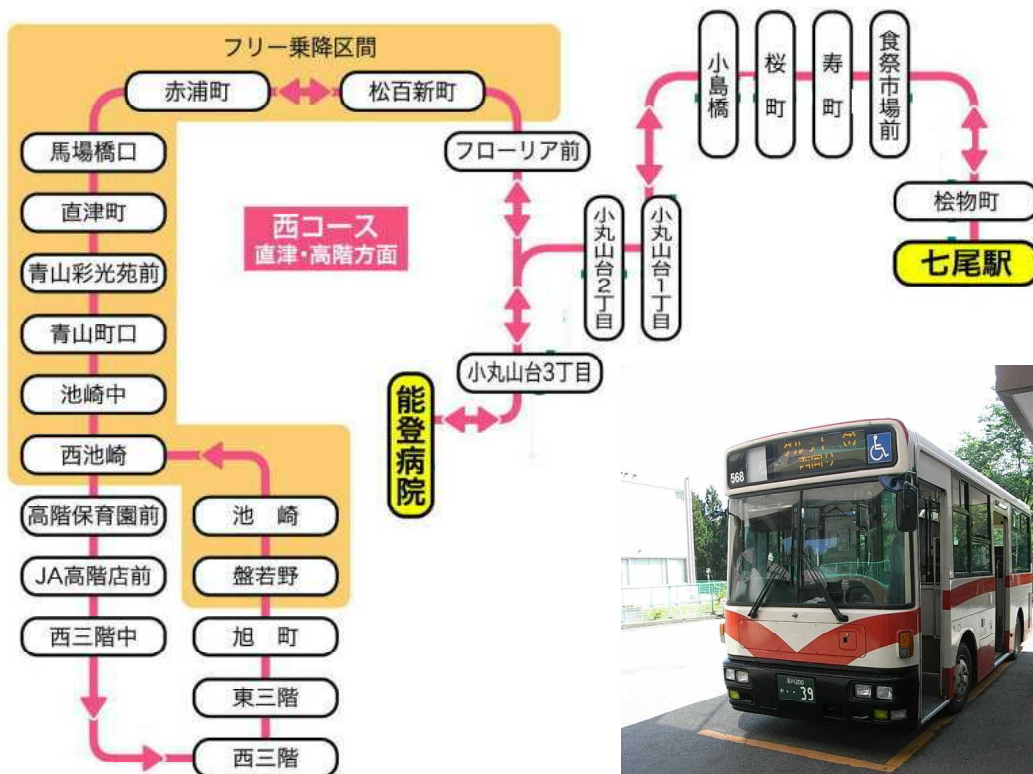
この署名活動は、車いす生活者だけではなく、高階・直津・赤浦地区の住民や、小丸山小学校に通学する児童の足の確保のためにも皆が力を合わせ行いました。青山彩光苑の利用

者・職員・地域住民・地元選出の市議会議員などが参加し、武元七尾市長に車いすが乗車できるコミュニティバス運行の陳情をしました。

その運動の成果が実り、2002年11月より七尾駅から恵寿総合病院・公立能登総合病院・青山彩光苑を経由し高階地区を結び、車いす2台が乗車できるコミュニティバスの運行が開始しました。

今後、青山彩光苑～七尾駅の停留所を数年かけてデジカメで撮影し、観光やバリアフリー状況を取材して報告したいと思います。

ぐるっと7路線図(取材は西コース青山彩光苑～七尾駅)



(バス路線図提供：七尾市)

前号からの続き↓

① 「ぐるっと7」 公立能登総合病院



公立能登総合病院



公立能登総合病院に設置のバス乗降スロープ

国際医療福祉専門学校七尾校



公立能登総合病院の正面玄関



国際医療福祉専門学校七尾校の正面



公立能登総合病院のバス停



国際医療福祉専門学校七尾校は、以前の七尾短期大学です。現在は、医療・福祉系の専門学校です。

ここから将来の理学療法士・作業療法士・救急救命士・介護福祉士(H24.4月開設)が誕生するのですね。

② 「ぐるっと7」 小丸山台3丁目



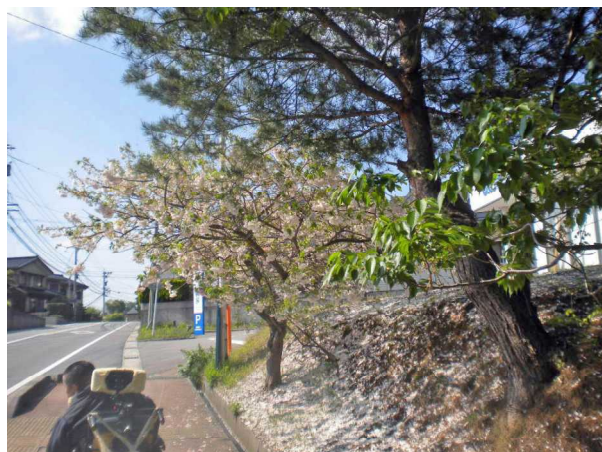
小島町方向から直津バイパスを撮りました。
このバイパスを通ると、青山彩光苑へ行けます。



←至田鶴浜 至JR七尾駅→

この辺は高級住宅が建ち並んでおります。
公立能登総合病院へ向かう道路の左右にある
空き地は、病院職員の駐車場になっています。

小島西部交差点から公立能登総合病院

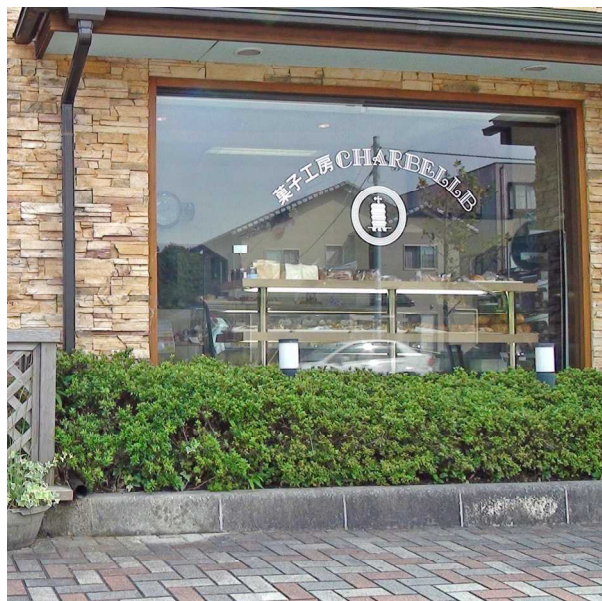


春の暖かい日差しを受け、「あおぞら薬局」
前から公立能登総合病院へ向かっています。



「あおぞら薬局」小丸山台店

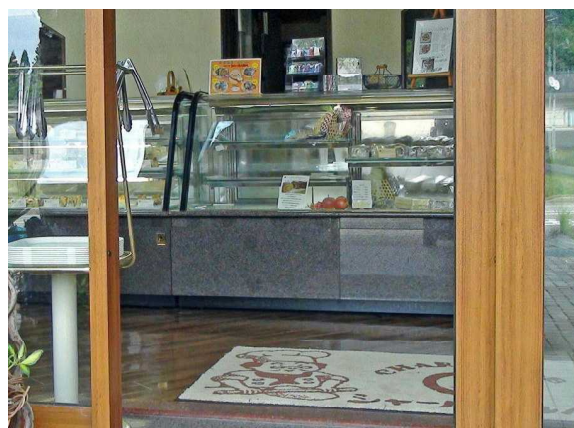
③ 「ぐるっと7」 小丸山台2丁目



菓子工房「CHARBELLB小丸山台店」



←至田鶴浜 至JR七尾駅→



菓子工房「CHARBELLB」の正面。段差はあるが、店員が親切に対応してくれます。



かねしげ食料店。いつも青山彩光苑へ食材を納入して下さっているお店です。



美味しい焼き肉店「蔵」。段差がありますが、予約すると車いすの方でも入れます。

～次号へ続く～

「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会

【はじめに】

89号から取り上げている「脳性麻痺の二次障害」の第一弾の企画として、当機関紙・編集委員会の主催、社会福祉法人徳充会「青山彩光苑」の後援で講演と懇談会を行いました。

88号で懇談会の企画内容と当日の様子を写真にて紹介しましたが、89号から講演と懇談会の内容を順次掲載しています。

【企画の経緯】

最近、脳性麻痺を伴う友人が手足のしびれ、痛み、^{くび}頸の痛みを訴えたり、頸の手術を受けた、頸の障害・加齢とともに歩行が困難になってきたなど、という話を多く聞くようになりました。

同じ悩みを持たれる方の体験を聞き情報交換をし、脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)の正しい知識と理解につながることで、生活の場面で役立つことになればと思い企画してみました。

【目 的】

同じ悩みを持っている方たちの話し合いによって、悩みや痛み解消の情報交換・学ぶ場にした。

【日 時】

2011年5月25日(水) 13時30分～15時30分

【場 所】

「青山彩光苑」西館一階 多目的ホール

【参加者】

二次障害の当事者、医師、看護師、相談員、ケースワーカー、作業療法士、理学療法士

【主 催】

「HSK季刊わたぼうし」編集委員会

【後 援】

社会福祉法人徳充会「青山彩光苑」

【プログラム】

①講 演

演 題：「二次障害の概要と手術」

二次障害とはどのようなものか?の講演、講師の発症から痛みとの戦い、手術の決断、リハビリ、職場復帰までの体験を語る。

講 師：

特定非営利活動法人

「自立生活支援センター富山」

理事長・平井 誠一氏

②座談会

参加者の体験、持っている悩みを語ってもらい、痛みの癒やし方法などを話し合う。

何人かの手術を受けた人たちの話を交えて話し合う。

座談会司会

特定非営利活動法人

「自立生活支援センター富山」

事務局長・浅木 裕美氏

「脳性麻痺者の二次障害(頸椎症)」について語ろう会・座談会I



パワーポイントを使って講演中



医師、相談員を交え、後半の座談会



手作りの頸椎の模型を使って説明



看護師、作業療法士を交え、後半の座談会

座談会

参加者の体験、持っている悩みを語ってもらい、痛みの癒やし方法など。何人かの手術を受けた人たちの話を交えて話し合いました。

座談会司会

特定非営利活動法人

「自立生活支援センター富山」

事務局長・浅木 裕美氏

(司会:浅木)

それでは時間になりましたので、座談会を始めます。司会進行を務めさせていただき自立生活支援センター富山の浅木です。よろしくお願いします。

座談会のテーマは「痛みと癒し」なのですが、まず、どういう立場の方がおられるかを皆さんで共有できれば良いと思うので自己紹介をしていただいて、その後に皆さんが日頃思っておられる痛みや癒しについてそれぞれの立場でお話していただければ良いかなと思

いますのでよろしくお願いいたします。

(羽咋から:丸田)

羽咋市から来ました丸田と申します。3歳の時に小児性カリエスになりまして、だんだん加齢によるのか痛みがひどくなってきています。どうすれば良いのか今のところまだわからないのですが、今日桶屋さんがこういう企画するというので参りました。

(羽咋から:嶋田)

嶋田三穂です。丸田さんと一緒に羽咋市から来ました。私はわたぼうしの読者です。そして丸田さんや桶屋さんの友だちです。よろしくお願いいたします。

(作業療法士:H氏)

青山彩光苑で作業療法士をしているHと申します。よろしくお願いいたします。

(看護師:K氏)

青山彩光苑で看護師をしておりますKと申します。よろしくお願いいたします。

(利用者:O氏)

青山彩光苑を利用しているOです。よろしくお願いいたします。

(利用者:A氏)

私は青山彩光苑利用者のAと言います。昭和18年生まれ。病名は脳性麻痺です。

(通所利用者:I氏)

こちらの障害者支援センターのIです。よろしくお願いいたします。

(通所利用者:H氏)

青山彩光苑リハビリテーションのHと申します。よろしくお願いいたします。

(職員:F氏)

青山彩光苑リハビリテーションセンターの職員でFと言います。よろしくお願いいたします。

(嘱託医師:H氏)

K病院から青山彩光苑に来て30年近く経ったHと申します。先ほどのお話で良い医者を選べと。人生色々。男もいろいろ。女もいろいろ。医者も色々です。良い医者、悪い医者、普通の医者と並べると自分で普通の医者だと思いますが、評判は悪い医者になっているだろうと思います。

(苑長:I氏)

青山彩光苑の苑長のIです。痛いのはイヤです。自分の力で痛みを和らげるとか。人の力を借りるとか。いろんな力を借りるとかも一つの方法だと思います。そういう思いでいます。

(企画:桶屋)

桶屋です。よろしくお願いいたします。

(利用者:H氏)

私は青山彩光苑利用者のHです。はじめまして。よろしくお願いいたします。

(司会:浅木)

今日は「痛みと癒し」ということで。結構難しいテーマだなと思って聞いていました。でも一番の所なので。痛みとかしびれは、怪我をして血が出ているとか傷になっているのと違って目に見えてわからないので、どれだけ痛いと言っても周りに伝わらないもので結

構イライラするのです。周りに伝わらないもので、結構イライラするのです。

皆さんも頭が痛いとかひざが痛いとか色々あると思うので分かると思うのですが、相手が痛いのはわかりたくてもわからないのでつらいし、当事者もわかってもらえずにつらいということがあります。

それでは、まずわかってもらえないイライラが結構募っていると思うので、当事者の方に普段どんな痛みを抱えているかとか。そういうところを皆さんお話してもらって、吐き出すところからやれば少しスッキリするかなと思うので、まずお話を聞くところから始めたいと思うのですが。

今日は、ここに通所して来られている人もおられて、帰る時間も関係あるので通所している人から話をしてもらえないかという話があったので、水色のTシャツを着ておられる男性の方。最初に今どんな障害で痛みとかしびれについて悩みを持っておられればその話。なければないで、今日はどんな気持ち、どういことを期待してこの場に来られたかについてお話ししてもらえれば良いかなと思います。お願いしても良いでしょうか。

(通所利用者: I 氏)

私は脳性麻痺で、頸の手術したのは2003年なので、もう8年ですね。その時に医者に言われたのは「もう神経が切れています、ダメだ」と言われまして。先生に言われた手術をして、リハビリを頑張っってここまで歩けるようになったんですけども。これ以上良くなるのは無理だなと思うのですが、少しずつでもよくなって元気になっています。はい。

(利用者: A 氏)

お宅の場合、痛くていられなくなって手術

したの？。どういう状態から手術することになったの。

(通所利用者: I 氏)

はじめは頸にいやな痛みがあって、しびれとるといふか。我慢ができない痛みがあって、それで手術になった。

(利用者: A 氏)

歩けていたのが歩けないようになったの？

(通所利用者: I 氏)

手術する1ヶ月前に全く歩けなくなった。

(利用者: A 氏)

手術する前に歩けなくなったの？全く？

(通所利用者: I 氏)

手術して少しずつ機能が回復してきた。

(司会: 浅木)

じゃあ、もう一方。

(通所利用者: H 氏)

私はリハビリテーションセンターに通所しているHです。頸が痛いのです。あとは2番目の骨が出ているのです。リハビリと薬でやっと、あったもので、手術を。足と腰が冷たく感じるのは、それは神経のせいですか？という質問です。

(講師: 平井)

僕は医者じゃないのでわからないのですが、僕は多分腰じゃないかと言われているのです。僕も腰の骨が傷んでいるのですよ。腰から下は腰の骨から来ているんじゃないかなと思うんです。もともと歩いておられたのですかね。

そしたら結構腰に来ているんだと思うんですけど。腰の骨。

(通所利用者: H氏)

自分でわかりますか。

(講師: 平井)

MR Iとか撮られたことはありますか。あるんですか。腰は撮られたことはありますか。一度腰を撮ってみられたら良いんじゃないかな。

(通所利用者: H氏)

携帯に質問を入力してきていて。読めば良い？。脳梗塞との違いは神経関係だけど、どう違いますか。自律神経のトラブルとは？

(私は両足頸と腰がすごく冷たいのですが自律神経のトラブルですか。) 回復力の違いはどうかということ、手術した人でしてよかったか？。しなければ良かったかと後悔しているか？。痛みはどれくらい和らいだか？。痛みは取れましたかということが書いてあります。

(司会: 浅木)

そういう意味では、この中で手術の経験がある方は。隣の方と。他におられますか。

(利用者: A氏)

私は肩胛骨が痛かったので、痛くて痛くていられなくなり、歩けなくなったのです。62歳まで歩いていたのですが、急に歩けなくなって痛くていられなくなりました。これは仕方ないわと手術しました。手術をしてから、何が変わったか？といったら痛みの場所がずれたというか、他のところに移ったみたいな感じだった。治ったかというと全然治ってい

ません。ただ神経の骨の所にとがったところがあるので、それを削って取っただけです。私がここに来たのも、何か良い方法を桶屋さんの友人から聞かれるかな？と期待して来たのだけれど。この痛みを少しでもやわらげる方法はないものかね。

(司会: 浅木)

それ悩みですね。確かにね。痛みは悩みですけど。

(利用者: A氏)

薬ばかり。あまり強い薬ばかり飲んでいると、しまいに飲む薬がなくなってしまう。今は少し、我慢しながらやっているけど、痛みがあるのはどうしようもない。少しでも痛みがやわらぐ方法があればどんなにかないかな、と期待したんだけど。

(司会: 浅木)

私が想像したよりも専門的な質問が多いので。私たちも当事者なので。ここに先生がいらっしゃるのです。これは先生に聞いた方が良くないかなと思うのですが。

(利用者: A氏)

私は1回手術しているから、もう1回の手術に耐えられるかどうか。この痛みが何とかならないかなと。

(司会: 浅木)

そうですね。よくわかるのですが、先に帰らないといけない人がいるので。先に進めていきます。

次号へ続く

移転・改装しました「HSK季刊わたぼうし」のホームページ

<http://jiritsusien.com/>

HSK季刊わたぼうし



そのため、周囲から指導を受け、プロバイダーを変え、サーバー容量を1G(ギガ)バイトに増やし、ホームページを新しくしました。それに伴い、パソコンに保存されていた過去の「HSK季刊わたぼうし」、以前に取材しましたJR七尾駅、羽咋駅の階段昇降機・七尾市のコミュニティバス「ぐるっと7」などの記事をPDF形式で公開。機関紙では味わえない美しいカラーでご覧頂ければと思います。和倉温泉の「わくたまくん」も応援。



七尾市和倉温泉のゆるキャラ「わくたまくん」(男の子)

「HSK季刊わたぼうし」のホームページを開設して14年近く経ちました。しかし、プロバイダーの容量が少なく、あまり情報を提供することが出来ませんでした。

「和倉温泉観光協会」より掲載許可済み

「HSK季刊わたぼうし」のホームページメニュー一覧

「HSK季刊わたぼうし」創刊の歩み	2010年度	「ぐるっと7」でめぐる七尾の旅 2010
「羽咋わたぼうし会」の紹介		
「HSK季刊わたぼうし」テーマ表		「ぐるっと7」でめぐる七尾の旅 2011
ホームページのリンク集	2011年度	七尾の旅 2011
2009年度	JR七尾駅、羽咋駅に階段昇降機	2011 七尾青柏祭 「末吉七尾線」道路改良工事

協力会費納入のお願いについて

平素は「H S K季刊わたぼうし」をご愛読いただきありがとうございます。

「H S K季刊わたぼうし」は1985年(昭和60年)1月に「羽咋わたぼうし会」の有志で施設利用者・在宅障がい者・健常者の交流を目的に創刊しました。

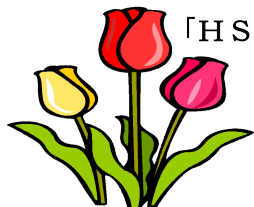
創刊以来、読者の皆様からの会費をいただきながら27年間、発行を続けてきました。

今後も能登地方の障がい者福祉活動として「H S K季刊わたぼうし」を存続させていくため皆様のご協力をいただきたく、今回、郵便振替用紙を同封させていただきました。

主旨をご理解の上ご協力いただきますようお願いいたします。また、既に振り込まれた方にも、送付作業の関係上、振替用紙が同封されていますのでご理解のほどお願いいたします。

2012年4月

「H S K季刊わたぼうし」事務局



編集後記

今年の冬は異常な寒さでした。春の訪れ、梅や桜も遅く、農作業にも影響が出ています。

さて、昨年から連載している「ぐるっと7でめぐる七尾の旅」の取材で、七尾市藤橋町の「国際医療福祉専門学校七尾校」の七尾祭の時に訪問しました。

それがきっかけとなり、同校の正面玄関に立派なスロープが設置されました。私たちが予想もしていなかった出来事に驚くとともに感謝しております。自ら行動をすることの大切さを学びました。(Z.0)



正面玄関に設置されたスロープ

年間協力会員募集中

この機関紙は障がいのある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しています。

この会費で、在宅障がい者や福祉関係機関等に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、年間協力会費として扱っています。

年間協力会費：2,000円

会費振込先：郵便振替口座

振込先名義：わたぼうし連絡会

00750-6-9791

送付：春、夏、秋、冬

編集及び連絡先

ホームページ

<http://jiritsusien.com/>

Eメール：zen@san9.net

定価二〇〇円